



荇田小たより

横浜市都筑区荇田南町6 9 4番地 [Tel.911-0149]

アドレス [<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/>]

「不易」と「流行」

副校長 中里 充

『 みんなで完成させよう！ 荇田っ子パズル 』

①あいさつ ②清潔 ③進んで行動 ④ルールを守る ⑤協力 ⑥体力づくり

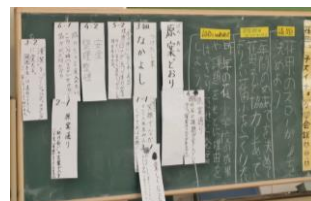
これは、第1回荇田っ子大イチョウ会議で決まった、今年の荇田小学校のスローガンです。



荇田っ子大イチョウ会議とは、計画委員と各委員会の委員長、3年生以上の各クラスの代表委員が集って荇田小学校の児童会活動の方針や活動内容を決める会議です。計画委員会が中心となって原案を作り、その原案をもとに各クラスで話し合い、その意見を持ち寄って会議が行われます。

およそ7年ぶりに荇田っ子大イチョウ会議を参観した私は、前と変わらず6年生を中心としたリーダーたちが荇田小学校をよりよい学校にしようと熱っぽく話合う姿に、懐かしさと共にとても

うれしい気持ちになりました。昨年度末から続く新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休校や分散登校、感染拡大を防ぐために様々な制限がある中での学校生活を送っている子どもたちですが、以前と変わらず、「楽しい学校生活を送りたい」「自分たちの学校をよりよくしたい」という思いは不変なのだ改めて感じました。まさに「不易」です。



遅ればせながら自己紹介させていただきますと、私はこの4月に副校長として着任しました中里 充（なかざと みつる）と申します。荇田小学校40周年当時に教員として勤務しておりましたので、本校6年目となります。

当時から学校教育目標とともに「米作りは、人づくり」のコンセプトの下、荇田小学校の特色ある教育活動の一つとして稲作活動に取り組んでいました。同時にたてわり活動を効果的に取り入れ、異学年交流と豊かな人間関係作りを進めてきました。苗取り、田植え、案山子作り、稲刈り、餅つき祭り等々。このたてわり活動の中で6年生はリーダーとしての自覚と責任を、5年生はリーダーを支える役割、4年生～1年生は6年生のリーダーの姿にあこがれながら上級生から様々なことを学んでいました。そして様々な活動に保護者の方や地域の方々にお手伝いいただきながら、三位一体となって子どもたちを育ててきました。

松尾芭蕉の言葉を借りると、どんなに社会が変化しようとも時代を超えて変わらない価値のあるもの（不易）と、時代とともに変えていく必要があるもの（流行）があり、学校教育にも同じことが言えます。

現在の感染状況や横浜市が示すガイドラインからは、まだまだ本格的なたてわり活動はできませんが、前述しました荇田っ子大イチョウ会議でのリーダーたちは、とても意欲的でした。その意欲や姿は「不易」であり、荇田小学校が目指す子ども像でもあります。稲作活動やたてわり活動等を通しての他者との豊かな関わりも同じです。一方、現在進められている外国語活動やプログラミング教育、GIGAスクール構想等は「流行」となります。教育活動では、この「不易」と「流行」のバランスが大切になると考えます。今年度は新学習指導要領全面実施の年ではありますが、コロナ禍の中での新しい学校生活様式も考慮に入れての教育活動となります。

このような状況下ではありますが、教職員一同、保護者や地域の皆様と連携しながら荇田小学校としての「不易」を大事にし、このコロナ禍の中での「流行」となるよう心がけて、様々な教育活動に取り組んでいきたいと思っております。